

講義科目名称： 山陰論

ナンバリング： N-13-01-D

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1単位	必修
担当教員			
土居裕美子(ydoi@tcn.ac.jp)、喜多村理子、國本真吾、菅田理一、加藤紗也香			
授業形態	授業時間数	授業時間外学習時間数	科目区分
講義	15時間	30時間	基礎分野【社会科学】
添付ファイル			

特記事項	<p>資格選択区分</p> <ul style="list-style-type: none"> ■看護師資格必修 ■保健師資格必修 ■養護教諭二種免許必修 □看護師資格選択必修 □保健師資格選択必修 □養護教諭二種免許選択必修 <p>ディプロマポリシーとの関連性</p> <ul style="list-style-type: none"> □広い視野と人を思いやる豊かな人間性をはぐくみ、人生の問題や課題に誠実に向き合う力 □高い倫理性と堅固な使命感をもって生き抜き、人に寄り添う力 □専門的な基礎知識と論理的思考にもとづいて看護実践する力 □チームワークを重んじ、創造的に多職種と連携・協働する力 ■病院から地域・在宅へと療養の場が移るなかで、地域で暮らす人びとの健康と生活を支え、地域とともに歩む力 <p>アクティブ・ラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> ●あり ○なし <p>実務経験のある教員による授業科目の配置</p> <ul style="list-style-type: none"> ●担当している ○担当していない <p>実務経験を授業科目にどのように活かしているか</p> <p>看護職としての実務経験のある教員が、山陰の医療・看護・保健について教授する。</p> <p>科目等履修生ほか受入（受入可能人数）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●受入可 ○受入否 <p>受入可能人数</p> <p>5名</p>

授業の概要	世界中に情報が行きわたり、地球上の経済・社会のグローバル化が進行している。その反面、それぞれの地域の固有な文化が見直されている。この授業は、本学における「地域志向科目」として地域を知るスタートの学びとして位置づけ、歴史・文化、医療・福祉の分野における「山陰」という地域の現状と課題、特色や意義についての理解を深める。そうした理解を踏まえたうえで、今後どのような地域貢献ができるのか、ディスカッション・グループワークを通して考えを深めていく。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・山陰地方の歴史と文化、社会と人々の生活などについて基本的理解をもつ。 ・地域社会の一員として、地域のあり方や発展について自分の考えを表明できる。 ・講義の内容を踏まえ、地域で暮らす人々の健康と生活を支えるために自身にできること・したいことを明確に表現することができる。 					
授業計画	回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
	1	オリエンテーション「山陰」とは・山陰の歴史と文化	講義	山陰地方の概要を確認したうえで、歴史的文化的意義について考える		土居
	2	山陰の民俗（1）ひとはなぜ葬送にこだわるのか	講義	宗教に寄って葬式（土葬・火葬・風葬）がどのように違うか知っておく		喜多村
	3	山陰の民俗（2）葬送・墓の歴史と文化	講義	授業で理解した内容を踏まえ、レポートを作成する		喜多村
	4	山陰の福祉（1）山陰ゆかりの福祉関係者とその思想	講義	山陰ゆかりの福祉関係者について自身で調べる		國本
	5	山陰の福祉（2）障害福祉の父の思想から考える実践	講義	授業で理解した内容を踏まえ、レポートを作成する		國本

	6	山陰の福祉（3）育児事業史を手がかりとして	講義	授業で理解した内容を踏まえ、レポートを作成する		菅田
	7	山陰の地域看護—地域医療・看護の現状と課題	講義・演習	授業で理解した内容を踏まえ、レポートを作成する		加藤
	8	山陰のことばと文化—「看護」と方言	講義・演習	授業で理解した内容を踏まえ、レポートを作成する		土居
先行履修科目						
テキスト	授業で使用する文献については、テキストとしてハンドアウトを配付する。					
参考文献	参考文献は授業中に適宜紹介する。					
評価方法	各単元の小レポート75%、学びの振り返りレポート25%を総合的に評価する。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	提出されたレポートは、学びの振り返りに活用できるよう、コメントを付してフィードバックを行う。					
備考	この科目は地域志向科目であり、地域とともに歩むために1年次前期「地域志向基礎論」「地域志向基礎実習」を踏まえ、「まちの創生論」につながる科目として展開します。私たちが生活している山陰、郷土のさまざまなことがらに目を向け、関心を持ち、理解し、自分の立場から地域にどのように貢献できるか、授業を通して考えていきましょう。					